

第 10 回幸せになるための教育を実現する会議 議事録

日 時 令和 5 年 5 月 22 日（月）午後 3 時～午後 5 時

場 所 401 会議室

委 員 神谷、鈴木、大崎、曽根、三浦

そ の 他 企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長

議事録作成者 企画課 内田

1. 議題

（1）半田市の幸せになるための教育

◆懇談会の振り返り

○委員長

教育委員と実際に顔を合わせた懇談を通して、幸せは教えることではなく、考えることが重要である点が伝わり、理解が深まったと思います。前回の教育委員との懇談会の感想を教えてください。

○委員

保護者として教育委員の仕事について理解が深まり良かったです。今後、現場の生の声や課題をどのように拾っていくかが課題だと思います。学校の先生と話す機会があり、この会議について話をしました。この会議の存在は知っていましたが、何のため、何をきっかけに始められているか十分に伝わっているとは感じられませんでした。私なりにこの会議の趣旨、目的を伝えましたが、もっと伝えられる機会があれば良いと思いました。幸せになるため教育に取り組む意欲がある先生でしたが、もっとしっかり伝えと、もっと前向きに取り組めるのではないかと思います。また、先生が忙しさを改善し、子どもに向き合う時間を作る方法について会議で議論していることを伝えました。

○委員

教育委員と意見交換することができ良かったです。教育委員は提言書を見て、疑問に感じた点があったことが分かりました。現場の教員や保護者も同じことを感じていると思います。例えば、Q & A などを作ると理解が深まると思います。

○委員

皆様のお話を聞くと、教育委員や教員でも疑問に思うこと、誤解していた点があるようですので、保護者や子どもたちに伝えていくことはもっと難しいと思いました。徐々に浸透していければ良いと思います。

○委員

スタートとしては良かったと思いますが、幸せという概念が過去に教育委員の間であまり議論されなかった点は残念に思いました。末端まで理解を得るには時間がかかるため焦ってはいいませんが、この会議はもっと焦って、もっと深く理解をすることが必要です。

◆日本社会の評価について

○委員

日本社会をどう思っていますか、良いと思っていますか、を皆さんに伺いたいです。

私はとても心配で、将来のためにも何とか変えていかなければならないと考えています。

教育が良くないことが心配の根源で、教育能力を失っている親もいるので、学校教育から変えていくことが必要であると思います。

○委員

個人でいうならば、悪いとは言いたくないし、良い方向にもっていかなければならないと考えています。

全体の社会でいうならば、良いとは思っていません。保護者で子供が決まるとします。例えば、子ども食堂は素晴らしい取り組みですが、支援を受けている子の親にもできることがあるのではないかと考えてしまいます。自分で解決する成長の機会を奪ってしまっている側面があると思います。

○委員

情報化の進展で変化スピードが非常に速いので、社会の仕組みが追いついていないと感じます。多くの情報があふれている中、個人としてしっかり考えることが重要だと思います。

○委員長

IT 化などに対応することで手一杯だと思いますが、自分自身の判断基準を持つこと（自立）が重要だと思います。そのことを提言書にまとめました。提言書があるから考えるのではなく、自分自身の判断基準を養うことを望んでいます。

○委員

今の世の中は、個の自立の観点では心配ですが、悪いばかりではないと思います。環境問題への取り組みなどでは、日本のことだけ考えるのではなく、地球規模で物事を考えられる若者は増えてきていると思います。生きていく上で守るべきポリシーを育てていくことをこの会議で進めていけば良いと思います。

○委員長

事務局も日本社会をどう思っていますか、良いと思っていますか、について回答してください。

○企画部長

持続可能かどうかの視点でお答えします。現状で持続可能でないと考える点は他責社会の進展で、正していく必要があります。ただし、自己責任論を是としているわけではなく、多様な人々を理解する必要があります。

○企画課長

今の世の中の評価を、是か非かの 2 択で議論することではないと思います。良くない点もありますが、全体としては肯定的に受け止めています。いまの子どもたちは選択肢が多いので、生きづらさにつながっていると思いますが、多様性を認める世の中では否定することはできません。この会議ではウエルビーイングを求めていく点も賛同しています。将来、幸せになるために取り組むのではなく、今も幸せを感じながら幸せになる取組を進めることが良いと思います。

○事務局

自分自身も日本も恵まれている方だと思いますので肯定的にとらえています。今後については、子どもの頃の考えでは 40 年後の社会はもっと変化すると想定していました。しかし思っていたほど変化していませんので、悲観的な想定はしていません。

○学校教育課主任指導主事

学校は知識の詰め込みよりも、自分で考えて課題を解決する授業に変わってきており、良い傾向だと思います。今の社会は、企画部長と同意見で、誰かに決めてもらいたがり、自分で決めようとしないう傾向にあると思います。当事者意識が足りないと感じます。このまま学校に求める傾向が続くと、学校の先生が負担で押しつぶされてしまうことが心配です。

◆今後の幸せ教育会議について

○委員

国の将来を決めるのはリーダーの能力で、その能力を養うのには教育が重要です。イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」より毎年発表される「THE 世界大学ランキング」2023 年版では東京大学が 39 位、京都大学が 68 位、10 位以内がイギリスとアメリカで占められています。国際貢献にはお金が必要ですが、日本企業の稼ぐ力が落ちてきています。企業の力、働く従業員の力が劣化していることが原因です。この現状を踏まえてどのような教育をしていくかが重要です。私は、この会議で人が幸せになるための条件を議論したい。ウエルビーイングだけでは幸せになれないと思います。

○委員

この会議の提言は教育委員会に伝わりました。提言書を出した今の時点でこの会議で何をするのかよくわかっていません。提言書では、取組は教育委員会で考えてもらうとの趣旨です。この会議の議事録を教育委員会に参考にしてもらえばよいと、自分なりに理解しています。

○委員

そのようなことがこの会議で議論できていないため、議論が必要だと思います。

○委員

人が幸せになるための条件は人それぞれの答えがあると思います。個々の考え方を尊重するし、しっかり考えた結果であるならば違う考え方を持つことも、提言の趣旨では良いとしています。そのためまだ提言したばかりで、どう取り組むかを考えている今、この会議で何を議論するのか、自分にはよくわかっていません。

○事務局

この会議は市長への提言が目的でスタートしました。提言は実施しましたので、ひとつ目標が達成されたと理解しています。その後の取組については市長と相談させてください。もともと市長は民間の考え方を施策に生かしていきたいとの希望もあります。そのため提言後の目標については改めて整理する必要があります。委員長と事務局に一旦、預けてください。この会議でどのようなテーマに取組としても、その目的を市民に説明できなければならないと考えます。

○委員

この会議は考える会ではなく、実現するための会議です。そのような議論が無くてはこの会

議をする意味がなくなります。

○事務局

この会議の取組が、今後の目的、目標がどれだけ幸せになるための教育を実現するのに近づくかを明らかにした上で進めていく必要があるとの意味で言いました。

○委員

まずここで激論をして、このような教育はどうでしょうかという発信していく必要があると思います。そうでなければ、会議をする意味がなくなります。

○委員

今、会議をする必要はないと思います。各学校での取組がまだ示されていません。提言書のとおり、まずは、現場が自発的に動くことを期待しています。

○委員

現場は現場で動けば、迷いや苦しみが出てきます。それらの声を吸い上げて、この会議で受け止め、必要であれば第 2 の提言を行うべきだと思います。昨年度に行った提言が最初で最後の提言ではありません。

○委員

現場からそのような声があった時に私たちが動くことが良いと思います。これから学校現場で取組をスタートさせる時に、次のメッセージを、教育委員会に向けて発信することは良くないと思います。

○委員

取り組む前から次から次へ提言や意見を教育委員会に伝えることをしてはいけません。現場からの声に対して即座に応えられる準備として、この会議がしっかり議論しておく必要があると思います。

○委員長

聴く耳は持ち続けたいと思いますが、この会議の目標やゴールの設定が必要だと思います。幸せになるための教育を実現するために何ができるかは考えていきたいと思いますが、今は見守る必要があります。学校現場で、困っていること、成功事例があれば随時報告して欲しいです。より良い教育の実現を目的一度整理して、改めて会議の目標を設定する必要があります。

ます。

○委員

現場の状況を随時報告してもらいたいです。現場と一緒に考えたいと考えています。必要であれば現場の声をとりまとめて、第 2 の提言をする考えです。

○委員長

学校の取組で報告できることはありますか。

○学校教育課主任指導主事

今はありません。各学校では、どのように教育目標に位置付けるかを検討している最中ですので、次回の会議では、お伝えできると思います。

○事務局

この会議でどのような議論をしていくかを踏まえて、委員の皆様にとどのような情報を提供するかを教育委員会、学校、市長など関係者の意見も聴く中で、委員長と相談の上、後日、報告します。情報を隠す意図はありませんが、精査し、お渡ししたいと思います。

◆その他の意見

○委員長

先日、大分県中津市の福沢諭吉記念館に行きました。教育について考える良い機会でした。福沢諭吉の言葉で「活用なき学問は、無学に等しい」とあります。学んだことを活かすことの重要性を説いていますが、まさに、私どもの行う提言も、実行していくことが重要だと思います。また、レベルが違いますが、私もこのような会議で教育について議論できることに感謝しています。

○委員

福沢諭吉の「一身独立して一国独立す」の言葉を思い出しました。個人として独立した人間があって、国として独立できる、との意味ですが、まさに半田市にとっても個人の自立が必要で、まだまだ不十分です。この会議の議論も半年間、ストップしました。私たちは時間と競争と考え、議論を尽くさなければなりません。

○委員長

内閣府で教育未来創造会議、私も分科会に参加していますが、超党派の国会議員による教育立国推進協議会など国レベルでも教育を何とかしたい思いで協議が行われていますが十分な成果が得られているとは言えないと思います。

○委員

地方自治体で、半田市と同様の取組はあまり聞いたことがありません。学校教育現場や大学における教育の検討は、どのように国語や数学などを教えるか、テーマにすることが多いと思います。この会議では、まず、生き方や幸せになるために重きを置いた議論をする点で珍しい取組といえます。また、専門分野の研究者は多いと思いますが、2つや複数の分野をつなげて教育を考える研究者は少ないため、これから取組でいくべき事柄であると思います。大きな枠組みである生き方や幸せになるというテーマはなおさらあまり聞きません。

○委員

自治体間のお助け競争を危惧します。自立の機会を奪っていると思います。日本が抱える最大の問題点で、この問題点を生みだしているのが、決定に関わる人すべての人間性に起因しています。

○企画課長

行政が担っているセーフティネットの役割は、自立の機会を奪っている点で懸念やどの水準が適切に悩みながらも、サービスを上積する自治体間競争が進み、拡大している現状があります。

○委員

人気や話題となる明石市などの自治体は、支援策が前のめりで、人が支援策を求めて人が集まっている傾向があります。

○企画部長

給付施策に人が集まる傾向がありますが、明石市はやや伝わっていることと目指していることにギャップがあると思います。給付施策のみでは持続可能ではないと考えています。

○事務局

行政に限らず、良い商品（政策）が勝つのではなく、プロモーションなど別の要素で勝つ傾向は民間でも見られることだと思います。理想だけでなく、人間の本質、ハートの部分も加

味する必要があると思います。

○委員

メディアの取り上げ方に引っ張られている部分があると思います。

発信でいうならば、行政と教育委員会が手を取り合って教育を良くしようと考えている半田市の取組はすごいということを周辺に発信しています。

○委員

教育についての政治的中立性や継続性・安定性の是非を今こそ再検討する時です。これが社会からの乖離を招き、本来あるべき教育の形をゆがめています。

○委員長

最年少市長の芦屋市長が最もこだわりたいのが「教育」で、一人ひとりにあった「子どもの教育」に取り組みたいと言っています。多種多様でよいと言っています。具体的には子どもに向き合うための時間を作るために教員の負担軽減を発言しています。根本は我々の取組と似ているのではないのでしょうか。

均一が良いという教育圧力は打破していきたいです。

<終了>